

岩国基地問題に関する要望

本市は、国の外交・防衛政策を尊重し、これに協力してまいりましたが、隣接の岩国市に所在する岩国基地は、厚木基地からの空母艦載機移駐に伴い、航空機の配備機数が極東最大規模の基地となったことから、柳井市民も、その存在や運用に伴う日々の航空機騒音や、墜落の危険性への不安など基地に起因する諸問題を抱えております。

そうしたなか、航空機騒音の測定につきましては、平成12年に旧大畠町が本市神代地区の宮岬集会所に測定器を設置しておりましたが、平成24年8月に国において同集会所に新指標に対応した測定器を設置されました。今日までの継続的な測定、騒音状況の公表に対しまして感謝申し上げます。

その宮岬集会所での騒音発生回数は、移駐が本格化する前の平成29年10月までは、年間1,000回程度であったものが、移駐完了後の平成30年度、令和元年度には1,600回を超えており、移駐の前後を比較すると1.5倍以上に増加しております。

また、移駐が目前に迫った平成27年度から、岩国市に隣接する日積地区からの航空機騒音に関する苦情が急激に増えたこと、また、移駐後は騒音被害が更に拡大するのではないかと懸念が市民の中で広がる状況を踏まえ、市として騒音状況を把握するため、平成28年度と29年度に日積地区の計2か所に市独自に測定器を新設いたしました。これらの地点での騒音発生回数は宮岬集会所ほどではありませんが、移駐前後を比較した場合、空母艦載機着陸訓練（FCLP）前後の4月、5月は増加している状況となっております。

さらに、移駐完了後には、平郡地区（平郡島）において騒音が増加したとの苦情を受けて、令和元年度に市独自に本島に1か所測定器を設置しているところでございます。

このように宮岬集会所を除く3か所の測定器は、市において設置しておりますが、国による測定器のような自動測定、自動判別機能はなく、記録した70db以上の様々な音を職員が聞きながら判別する作業を繰り返し、航空機騒音回数等を把握している状況でございます。

これまでも中国四国防衛局長や企画部長に対し要望しておりますが、移駐後の航空機の運用実態に即して、飛行ルート下にある地区に対し、国による騒音測定器の増設について特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

また、基地の円滑な運用に当たっては、市民が安心して安全に暮らせる環境の確保が重要であり、本市の実情を十分御配慮いただき、市民の不安解消につながる安心・安全対策、住民生活の利便性向上、地元経済の活性化、雇用の確保に資する産業活動への支援など、我が国の平和と安全への貢献に見合う地域振興策の充実が目に見える形で措置されるよう特段の御配慮も賜りますよう併せてお願い申し上げます。

令和3年9月22日

山口県柳井市長 井原 健太郎

山口県柳井市議会議長 山本 達也